

「恋人の聖地」へ おいでなして

八島湿原で
安全祈願祭

観光客増加に期待

下諏訪町郊外にある八島湿原の安全祈願祭は27日、同湿原の広場で行われた。主催する下諏訪観光協会などから関係者約30人が参列し、神事でシーズン中の安全を祈願。4月に「恋人の聖地」に選定されたことから、観光客の増加にも期待を寄せた。同湿原では大型連休明けからシュレーゲルアオガエルが鳴き始め、レンゲツツジの季節を迎えたあと、7～8月に本格的な夏山シーズンに入る。
(今井則幸)



霧の中で行われた八島湿原の安全祈願祭。「恋人の聖地」に選定され、観光客の増加も期待された

河西正一同観光協会副会長は「自然の中で安全に楽しんでもらうことが最も大切」とした上で、「恋人の聖地」に選ばれうれしく思う。多くの人が来てもらい幸せになっていただきたい」とあいさつした。来賓の青木悟町長は「恋人の聖地」

のモニユメントを関係者と協議し、できるだけ早く設置したいと希望。「多くの皆さんに来ていただき、喜ばれる自然環境の場にしていきたい」と述べた。

富山県の実家に帰る途中、たまたま寄ったという東京都大田区の会社員、一原雅幸さん(40)が一般参加者を代表して玉ぐしをささげた。霧に包まれ湿原を見渡すことができなつた一原さんは「今度は家族3人で訪れ、景色や花を楽しみたい」と話していた。

八島ビジターセンターあざみ館職員 田口信さん(58)によると、八島湿原ではレンゲツツジ(6月中旬)、ニッコウキスゲ(7月中旬)、マツムシソウ(8月中旬)が楽しめるほか、草花が咲かない春と秋も素晴らしいという。

湿原にはシュレーゲルアオガエルが多数生息。5月の連休明けから6月末まで鳴くといひ、キリガミネヒオウギアヤメなど植物とコケの固有種もある。観光協会によると、年間約80万人が訪れている。